HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	荻生徂徠の四書注釋に關する研究［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	趙, 熠瑋
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第12073号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/61573
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Zhao_Yiwei_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：　趙　熠瑋

審査委員　主査　教　授　佐藤　錬太郎
　　副査　教　授　弛　和順
　　副査　特任教授　三木　聰

学位論文題名

荻生徂徠の四書注釋に關する研究

本博士論文は徂徠の訓詁学、方法論、本体論、行動論、認識論を総合的に考察した徂徠の「四書」注釈に関する基礎的研究であり、以下の四点が評価できる。

①徂徠の注釈を古注、新注と比較して、徂徠の四書注釈を立体的に考察したこと。

先行研究では本論文のように徂徠注と鄭玄注の相違点を検証する研究がほとんどない。さらに、古文辞という観点から徂徠の『論語徵』『読荀子』『蘐園随筆』『問答録』など、異なる時期の著作を比較し、徂徠の「道」思想の変遷過程を究明した研究も少ない。徂徠の四書注釈全般を対象とする研究は本論文が初めての試みである。

②先行研究では『蘐園随筆』が軽視されてきた。本論文は『蘐園随筆』に見える理気論について考察し、徂徠学の変遷過程を明確にし、先行研究と異なる見解を立証している。

③朱子の理気論を批判するために、徂徠が打ち出したのが気一元論的な見解で、徂徠の気論には、宋明の気一元論と異なる特徴が見られると指摘し、宋明の気一元論と異なる気論を徂徠が唱えたという問題提起をしている。

④先行研究では『中庸解』『大学解』についての研究が不足していたが、本論文では、徂徠の『大学』『中庸』注釈を取り上げ、従来の研究の欠落を補っている。徂徠が宋明儒学と異なり、形而上的哲学議論を一切しない理由を考察し、武士としての徂徠が、江戸時代中期の商品経済の発展、町人階級の興起、蘭学の渡来などを背景として、『大学』『中庸』に注釈を加えたのは、時代に適応した思想的営為であったと指摘している。

なお、不十分な点としては、徂徠学と徂徠が生きていた時代背景、社会事情との関連性についての考察が足りないことや、徂徠の「物」論と伊藤仁斎の「一元気」論とは明らかに伝承関係があると認識しながらも、伊藤仁斎の四書注釈との伝承関係について論述しきれていないこと、徂徠学と明末清初の中国思想、特にその理気論との異同と関係性についてさらに比較研究する必要があること、明代陽明学派の朱子学批判との関係性についての考察が不十分であることなどが挙げられるが、今後の比較研究の進展に期待できる。

なお、本論の第一章は「荻生徂徠『蘐園隨筆』における仁齋學批判」という題目で『中國哲學』第４１．４２合併号（北海道中国哲学会、2014）に掲載されている。第二章は「『論語徵』における「古言」に關する考察」という題目で『研究論集』第１２号（北海道大学文学研究科、2012）に掲載されている。第三章は「『論語徵』における「先王の道」について」という題目で『日本学研究』第２３号（北京日本学研究センター、2013）に掲載されている。第四章は「古學派の『中庸章句』における「鬼神論」批判について」（『研究論集』第１４号、北海道大学文学研究科、2014）と「荻生徂徠『中庸解』における「誠」について」（『中國哲學』第４３号、北海道中国哲学会、2015）とを併せて再構成したものである。第五章は「荻生徂徠『大學解』における朱子學批判について」という題目で『研究論集』第１５号（北海道大学文学研究科、2015）に発表済である。いずれも査読付きの雑誌に公表済みであり、既に一定の学術的評価を得ている内容である。

以上に基づき本審査委員会は、本論文に示された申請者の研究成果を高く評価し、全員一致で本論文を博士(文学)の学位を授与されるにふさわしいものであるとの結論に達した。